

## 野村恒造翁銅像跡

野村恒造翁は嘉永3年徳山小沢町の素封家に生まれる。野村家は富田に野村開作の地名が残っているように、殖産のために開作を行い、広大な土地を所有し、県内では指折りの資産家であった。

温厚で気品があり、若いころから私財をなげうって公共事業に身をささげ、徳山村長および町長に就任すること前後四回、またしばしば選ばれて国会議員となった。その卓抜した明智をもって、山陽鉄道の開通に活躍し、明治37年海軍練炭製造所の誘致に成功、さらに徳山・岩国間の岩徳線開通に努力するなど終生、徳山発展のために尽力した人である。

大正9年71歳で死去したが、昭和7年翁の功績をたたえ、有志のかたの企画により徳山公園に銅像が建立された。しかし第二次世界大戦で、昭和18年銅像も供出され、台石は残っていたが、昭和33年動物園設置のため取り除かれ、翌年12月市役所前に胸像が建てられた。



野村恒造翁銅像

## 一ノ井手分教場跡

明治6年岐陽小学校の分校として設立された。木造平屋建の校舎で当初生徒数は、18名（男15名・女3名）で、校長は福間敏輔先生であった。

入学年齢は6歳からで8か年在学が原則であったが、多くは4年以下で卒業または退学していたようである。明治35年に廃校になった。

